

命がけで守り、汗と血潮で受け継いできた山の富

保古山の沿革

天保年間	大火災により奥山焼き尽くす（焼失）
明治13年	洞沢に植林 3人で2a
明治29年	山林保護規約制定
明治35年	奥山造林始まる
明治40年	金原明善翁私財20円寄付
明治45年	植栽計画が決議される
大正7年	毎年12町歩造林することになる
昭和9年	第2期施業計画案樹立
昭和20年	戦時特別伐採命令を受ける
昭和24年	岐阜県第4回植樹祭
昭和30年	東野開発振興会設立
昭和47年	東野生産森林組合設立
昭和48年	岐阜県東農林業実験林を設ける

この木とともに一世紀（原文のまま）

明治四十年金原明善翁来村以来奥山（現在の保古山）二十五ヘクタールの人
工造林が東野の心血をそそいで行われた。この頃自然林の中にも松、杉、
檜、樺、榎、姫小松、栗の八種木の禁伐の制度が実施され自然の保護と
森林資源の保護への礎がきずかれた。ここにあるヒノキ林はその代表的な林
分で東野に住む二百五十人の父祖が三代にわたって銀のしずくを大地に流し
天の恵みを限りなく生かし、はぐくみ、育てた東濃ヒノキの代表とも云うべ
きものである。これこそ林業人と自然が見事に調和して創り上げた一世紀の
芸術である。

この先代からの偉徳を忘れず森林施業計画を大径木仕立ての方式でいま若い
汗と血潮がうけついでいる。（金原林にあった看板・・・今はありません）

広報ひがしの

人口1650人

（男）834人

（女）816人

641世帯

（R47.1現在）

山の争奪戦！！

山論とは・・・
・山野の境界、利用をめぐる村落間の争
論。江戸時代に頻発しました。

東野村と茄子川村との山論の結果、全
十一ヶ所に杭を打ち、山境をはっきり
させました

関連記事 P 2, P 3

（絵地図の上側が東野）（蔵 坂本公民館）

東野生産森林組合

草刈り場の争奪戦奥山（保古山）論

昔は、今のように、化学肥料がありませんでした。百姓は山の草を刈って田畑の肥やしにしていました。しかし、江戸時代には境のはっきりした山が少なく、ほうぼうで村と村の山争いがありました。

今から三百七十年前、正徳五年（一七一五）のことです。

東野村の孫九郎という百姓が白坂と茄子川との境の「水の手」という所で芝刈りをしていました。そこへ、茄子川の百姓たちが山の所有権をめぐって因縁をつけてきました。

数日後、茄子川の百姓たちが勝手に「水の手」で草刈りをしているという知らせに、東野の百姓たちは怒って、大勢で、「水の手」へ行き、鎌を取り上げてしまいました。その後も、お互いに所有権を主張しあい、解決の糸口が見つからないようになってしまいました。

そのうち、茄子川の百姓たちが、岩村の殿様に所有権を主張し、何とかしてほしいと言ってきました。東野も証拠を見せながら、訴えました。

安田善左衛門組頭

東野村の二十分の一、六十石を所有していました。安田氏は山論の際に、命を懸けて尽力した人でした。相手の茄子川村は、尾張藩の領土です。御三家の尾張を相手に勝利した努力は実に感謝すべきことです。その子の伝左衛門は、「一心不乱」と名乗り庵寺にて没しました。今でも、庵寺の中に位牌があります。子孫は絶えてしまったそうです。



と岩村の殿様は、東野の言い分を認めました。

茄子川はだまってはいませんでした。今度は江戸の奉行所の土井伊予守のところへ訴えに行きました。しかも、「水の手」ばかりでなく、保古山全体の所有権を主張したのです。東野も江戸へ呼び出されました。茄子川と東野で話し合って地図を作ってこいという指示が出ましたが、なかなか話し合いがつかず、地図ができません。

そもそも、茄子川は尾張藩の領土で、東野は岩村藩の領土です。尾張と岩村では格が違います。岩村の殿様は、尾張の殿様に歯向かえるはずがありません。東野が正しいと思うても、なかなかそう認めることができなかったのです。

や 山論の鎮の森や三尺坊 き 記念林金原翁や山の富

双方が評定所に呼び出され、地図のできなわけを聞かれましたが、東野の代表である安田善左衛門がいろいろ申し上げているうちに、失礼なことを言ってしまうと、牢屋に入られてしまいました。最後は、現地調査をして境を決めるということで、役人が調査をし、採決が下りました。結果は東野の有利な裁定でした。

村の代表の努力で、東野の奥山がはっきりしたので、村にとっては忘れることのできない事件でした。

その日をお祝いして、城ヶ峰というところに石堂を建てて、お祭りをしたといわれています。（「私たちの郷土の昔と今」より）



城ヶ峰神社

山高きを持って尊しとせず、木あるをもって尊しとする金原明善

金原明善と水野定治



金原明善翁

令和三年十二月十九日の中日新聞岐阜県版に金原明善に関する記事が載りました。

記事の概要は、濃尾地震から百三十年目になる節目に合わせ、一九五三年「岐阜県と金原明善翁」が復刻されたというものです。

金原明善翁は、ご存じの通り、東野の山の植林にも大きな功績のある方です。

この記事を読み進むと、復興された本の原作者は、恵那出身の水野定治という方です。



水野定治氏

金原明善を支えた水野定治は郷土・恵那の出身

水野氏は、岐阜師範学校を卒業後、小学校の教員になりますが、金原明善翁に出会い、三十才で上京し、弟子になります。それは尊敬していた二宮金次郎の姿が金原翁と重なり、彼を支えることが自分の使命だと考えたからでした。彼がなくなってから、金原財団を守り、最後の伝記「金原明善」発刊に力を尽くしました。

復刻本

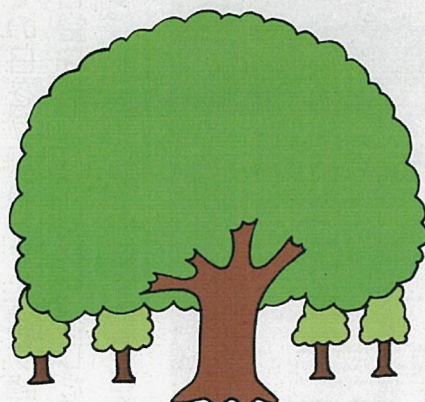
「岐阜県と金原明善翁」

【「一八九一年十月二十八日早朝、旧根尾村を襲った濃尾地震の犠牲者は七千人を超えた。山は崩れ落ち、荒れ果てた山林となった。それから六年後の九七年。当時の湯本義憲知事が、濃尾平野を復興するために明善の手を借りようと依頼した。明善は現地調査の後、山林にスギやヒノキの植林を開始。当時は県内で苗木の生産が盛んではなかったため、私財を投じて故郷・静岡の「金原林」の苗木を無償で提供した。

水野定治の著者名で五十六ページにわたるこの本は、この経緯が関係者の証言をもとにまとめられています。」

（以上、中日新聞記事より）

東野の金原記念林



ではその後植林が盛んになった。

金原翁の寄付金をもとに植林された場所を「金原記念林」と呼びました。

金原明善翁は明治四十年と四十三年に来村し、植林の大切さを力説され、東野

金原記念林(大正6年11月撮影)

～アーカイブス 東野～ より



また、保古尻の山林は金原翁の指導により植林されたということから「金原林」と呼びました。

大黒柱伐木イベント

岐阜県森林組合
連合会東濃共販所

東野のヒノキが大黒柱になりました

より東野
生産森林
組合所有
の山林に
て住宅イ
ベントを
開催した
という要望がありました。



イベントの内容は、住宅の大黒柱の伐木です。

私たちの祖先が将来を考えて、植林してくれたヒノキが、住宅の大黒柱になるほど育ちました。あいにく材木相場が昔ほどよくありません。筋のよい立派な木が育っているだけに残念です。

今回のイベントは、盛況であった昔を思い出させてくれるもので、懐かしさもありました。

今回は、四月三十日（土）に開催されたイベントを取材に行ってきました。

当日は、浜松、京都、四日市から三人の施主さんが家族ずれで参加されました。新築する我が家の大黒柱になる木の伐木とあって、どのご家族も喜々としてみえました。

イベントは、最初に山の持ち主である東野生産森林組合の組合長の三宅一彰さんのこの山についてのお話から始まりました。組合長さんからは、山の広さ、江戸時代からの山の歴史、金原明善翁の功績、植林の大切さなどの話がありました。子供連れの家族も見えたので、デイズリーリゾートなども例にあげ、分かりやすいお話でした。特に、話を通して、この山の木は先祖から大切に守り育ててきたすばらしい木であることが強く伝わってきました。

続いて、岐阜県森林組合連合会東濃共販所の味藤さんから注意事項の



お話があり、メーカー（日本ハウス）の一柳さんから簡単なイベントの流れのお話へと続きました。

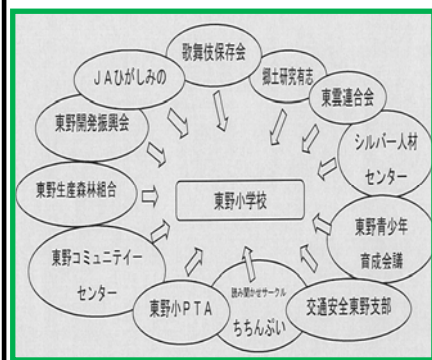
最大の盛り上がりは、木の伐木の神事です。木魂祭と呼ぶそうです。次第は①二礼二拍手②お清め③斧入れ、そして④伐採です。お清めはお神酒とお塩とお米を木の根元廻りに奉納する本格的なものでした。お清めが終わると恵那市森林組合の方々によって、伐採されました。樹齢約九十年のヒノキでしたので、樹高も高く、倒れるときは豪快で、感動をしました。

最後に根元の数十センチを輪切りにし、記念として、その株を施主さんが持ち帰られました。

多くの木が利用されずに朽ちていく中で、大切に育ててきた東野のヒノキが家の大黒柱になります。願ってもない事だと思います。



東野地区地域学校協働活動



この活動を中心となって進めていくのが、推進員です。現在は丸山文憲さんが活躍しています。

これらの団体が、安全支援、学習支援、活動支援、図書支援などの領域で支援をしていきます。

諸団体としては、左図に示したものです。

具体的には、地域を支える諸団体がそれぞれの得意分野を生かして学校教育を支援することを通して、自らの団体も活性化して、地域全体が元気になることです。

昨年度からスタートした事業で、今年度で二年目になります。

この協働活動の目的は、学校の教育方針に基づき、地域と学校が連携した活動を行い、教育活動の充実と地域づくりをめざすことです。

クラブ活動支援(郷土研究有志)

・歌舞伎クラブ

歌舞伎保存会の皆さんの指導のもと、10月の歌舞伎発表会に向けて練習がスタートしました。今回は台本の読み合わせです。



・郷土クラブ(史跡散策、郷土料理)



郷土のことについて学びます。今回は、蚕のことについて学んでいます。

また、郷土料理も学びます。今回は朴葉寿司です。(6月1日実施)

交通安全教室(交通安全協会)

交通安全東野支部が東野小学校で交通安全教室のお手伝いをしました。新年度の始まりに合わせて、一年間無事故で登下校できるようにと願いこめて実施しました。恵那警察署からも来ていただき、信号の渡り方、道路の安全な歩き方など丁寧に教えていただきました。



この交通安全教室が今年度第一回目の東野地区地域学校協働活動になります。

これまでの主な活動

・郷土散策クラブ

東野の旧所・名跡を訪ねて歩きます。



東野小学校

資源回収(東野小PTA)

資源回収の収益金は東野小学校の教育活動に役立てられます。(6月5日実施)

読み聞かせ 本の修理

(ちちんぷい)

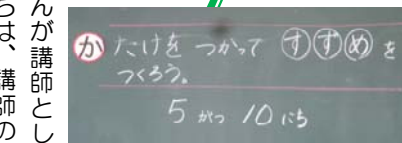
五月二十四日(火)
本の修理・ページのほつれなどをテープ等で修繕しました。
六月一日(水)
読み聞かせ・各教室へ分担して出向いて読み聞かせをしました。

学習支援(推進員、JAひがしみの、東雲連合会、東野コメンセン)

・サツマイモと豆の苗植え・五月三十日、プール横の畑にサツマイモの苗植えと豆の種まきをしました。



・田植え・五月十八日、東野小学校四、五年生が田植えを行いました。推進員の丸山さんや東雲会の松浦さん、JAの方々の支援を受けながら体験をしました。四年生は五年生を見本に、五年生は昨年の経験をもとに体験学習を進めていました。



・スズづくり
五月十日、東野小一年生が生活科の授業で、竹細工でスズを作りました。推進員の丸山さんが講師として参加しました。子どもたちは、講師の丸山さんの丁寧な説明に耳を傾けて、集中して活動に参加していました。



保古グランピング竣工式（霧の中での幻想的な竣工式）

四月十五日午前
十時から保古グラ
ンピングの竣工式
が開催されまし
た。

式は、オープニ
ング、市長挨拶、趣旨説明、感
謝状贈呈、来賓祝辞、ドロー
ンのアトラクション、内覧会と続
きました。

オープニングでは、東野歌舞
伎保存会の皆さんが白波五人男
を披露しました。各人の口上
には東野に関わる事が含まれて
いて、東野のイベントであるこ
とが印象に残りました。

前日からの雨が上がったば
かりで、霧の中での上演でした。
かすんだ景色の中での歌舞伎姿
もいつもと一味違って魅力的で
した。

観光地保古
の湖も姿を変
えていき、時
代の流れを感
じました。



白波五人男



グランピングテント

オープンしてから約一か月後の利用者の
声を紹介합니다。

・スタッフの方は若い方が多く、たき火のお手
伝いや、料理の準備等において接する機会も多
く、話しやすい方でよかったです。

・食事はグランピングならではのアウトドア感
がありつつも、豪華でおしゃれで美味しくて大
変満足です。また、地元の食材が多く使われて
いて、それも美味しい！

・チェックイン後は、お夕食の食材が届くまで
近くの湖まで散歩をしました。とても良い思
い出になりました。

・テントの中までBGMかのように、鳥のさ
すりやカエルの鳴き声が聞こえ、自然に包まれ
て大変リラックスできました。

・帰宅後「楽しかった」「また行こうね」と小
4女子に繰り返し頼まれています。スタッフの
方々のつかず離れずの対応も好感が持てます。
今回つれていけなかった家族を誘ってまた遊び
に行きたいと思います。

・全体的に、とてもきれいで食事も美味しく、
楽しい時間が過ごせました。

利用者の声

スタッフや食事など満足した声
が多かったです。なにより、保古
の自然に癒されたという声は、地
元の者としてうれしいですね。

花無山句会自選句

（令和四年六月二十四日）

- ・堀越しに矢車菊を一握り 市川 芳子
- ・老鷹の声聞き歩く老翁よ 千藤 猛司
- ・和菓子屋で菖蒲節句と教えられ 千藤 恵三

東野こども園 六月一日

東野おはなし会ちんぷいさんに
よる読み聞かせで、大型スクリー
ンを使って面白おかしく読んでい
ただきました。

子ども達は最後まで、集中してス
クリーンを見ながら、お話を聞いて
いました。

本と一緒に成長していくてくれるといいですね。



東野地域安全パトロール（8・9月）

金曜日16:00～17:00

8 月	
26日	東野開発振興会
9 月	
2日	東野開発振興会
9日	東野自治連合会（上）
16日	東野自治連合会（下）
30日	東野小学校PTA



見守り、よろしくお願いします。

発足から15年目を迎えました

「飯沼川を通じて郷土愛を育てる会」は、意を同じくする仲間が集まり、2007年6月に発足しました。最初の2年間は伊藤勝通さんが会長を務め、次に、渡辺忠明さんが9年間、現在は伊藤宮夫さんが4年目の会長を務めてみます。

当初は、年4回の飯沼川の草刈り作業を中心に、環境整備をおこなっていました。途中から年3回に変更になりました。

時を経るに従い会員数も増え、現在は45名の会員数を数えるようになりました。15周年という節目に、50名という切のよい会員数を目指して下記のような募集記事を載せさせていただきます。ぜひ、趣旨にご賛同いただき会員になっていただければ幸いです。

新型コロナウイルスの感染拡大防止で活動の自粛もありましたが、今ではこれまで通りの活動に戻りつつあります。



会員募集



草刈りの様子

飯沼川通じて

郷土愛を育てる会

す。東野の宝であるお米も川なくしては収穫することができません。生活用水としても、大切な水です。川を大切にすることは私たちの郷土の宝を大切にすることであり、生活を守ることにつながります。何より、郷土を愛する心を育てます。

「飯沼川を通じて郷土愛を育てる会」は、そんな思いで、東野の中心を流れる川、「飯沼川」を整備しています。

活動の中心は、年3回ほどの河川敷の草刈りです。その他に、ゴルフやバーベキューなどの親睦会を行うこともあります。

今現在男性三十七名、女性八名の計四十五名の会員です。

少子高齢化の波を受けて、年々会員が減っています。会の活性化に向けて、新規会員が待ち望まれます。ぜひご参加ください。



連絡先

伊藤宮夫 二六〇一六六〇
松浦明德 二五〇三九六三
千藤久明 二五〇一三七四



2019/06/09

◇コミセン利用団体◇ 紹介

太極拳こぶし（月3回木曜日、東野コミセンで実施）

いつまでも元気でいられるよう、心身共にリラックスできる体づくりを目指して、日々活動しています。

参加者募集中！お気軽にお声掛けください。

※問い合わせ先/東野コミュニティセンター

Tel26-2555



◇コミセン図書コーナー◇

一般書・児童書だけでなく、雑誌なども置いてあります。貸し出し可能なので、ぜひご活用ください。

閲覧可能雑誌/・オレンジページ

- ・今日の健康・趣味の園芸
- ・今日の料理



◇乳幼児学級◇

♡すくすくクラブ♡

6/16「防災と食育」をテーマに
パッククッキングを学びました。

（※講師/東野食改、桐山さん）

災害時でも美味しいものが、ビニール袋さえあれば簡単に食べられる。普段から緊急時に備えることが大事なことを再認識しました。

今回は・ご飯・カレー・サラダチキン

・いろいろの4品を作りました。

子供を連れてママさん達

頑張りました(*^-^*)

発行

東野コミュニティセンター ☎二六―二五五
東野地域自治区運営協議会 ☎二六―二二四

草刈り機 日没からの 大合唱

そこで一句

今は草の需要がほとんどないので草刈り機で刈り払うだけです。いくら草刈り機といってもこの時期の日中の作業はとても危険です。今は、朝よりも日が沈んでからの薄暮に草刈りをする人が多いです。日が暮れるとあちこちで草刈り機の音が聞こえ始めます。



夏の盛りの日中の作業は熱中症の危険もあり避けなければなりません。一句紹介します。

鎌を研ぎ 日昇る前のひと仕事

この句は、長野県のある山村の石碑に書かれていた句です。暑さを避け、朝のうちに草刈りを済ませたいというお百姓さんの事情を詠んだものです。

昔の草刈りは、刈った草を牛の餌や田畑の肥料に利用しましたので、とても大事な仕事でした。しかし、日中はとても暑くてできませんでした。

今は草の需要がほとんどないので草刈り機で刈り払うだけです。いくら草刈り機といってもこの時期の日中の作業はとても危険です。今は、朝よりも日が沈んでからの薄暮に草刈りをする人が多いです。日が暮れるとあちこちで草刈り機の音が聞こえ始めます。